

令和8年度 武蔵野市立第二小学校 学校経営計画書

1 目指す学校




みんなで作る子どもたちの「笑顔」と「夢」があふれる学校

2 教育目標




自らの人生を切り拓く自信と意欲を育み、多様性を生かし、よりよい社会の創り手となる児童を育てる。

◎ やさしく ○ かしこく ○ たくましく

目指す児童の姿

- 
【多様性を認め、尊重し合う児童】
 多様な背景や能力を持つ児童が互いを尊重し、協力し合う姿。
- 
【自ら学び、考え、行動する児童】
 自ら課題を見つけ、考え、行動する姿。
- 
【これからの時代を生きる能力を身に付け、最後までやり遂げる児童】
 自己の健康に関心をもち、主体的に運動や体力向上に取り組む姿。

目指す教職員（学校）の姿

- 
【誰もが安心できる居心地のよい学級・学校づくり】
 命を大切にするとともに、児童の主体性を尊重する。
- 
【常に学び合いよりよい授業を創る教員】
 意図的、計画的な授業を行うとともに、ICT機器を適切に活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる。
- 
【学校運営の主体者として協働・挑戦する教員】
 全教職員が学校運営の主体者としての意識をもち、互いの得意を生かして協働する。

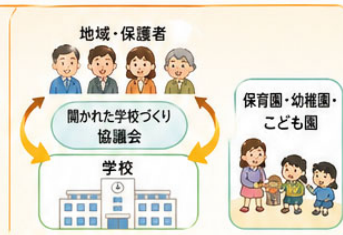
目指す児童の姿	目指す教職員（学校）の姿
<p>【多様性を認め、尊重し合う児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場や多様性を考え、思いやりのある行動をする。 ・いじめは絶対にしない、見過ごさない。 ・他者と対話し、協働してよりよい学級・学校を創ろうとする。 	<p>【誰もが安心できる居心地のよい学級・学校づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命を大切にするとともに、児童の主体性を尊重する。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、すべての児童が安心して学べる環境を整える。 ・家庭や開かれた学校づくり協議会等の地域と協働し、共に児童を育てる体制を構築する。
<p>【自ら学び、考え、行動する児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ、他者と協働しながらよりよく問題を解決しようと努力する。 ・自分の得意を伸ばすとともに、苦手にも挑戦する。 ・将来に向かって、自ら学び続ける。 	<p>【常に学び合いよりよい授業を創る教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意図的、計画的な授業を行うとともに、ICT機器を適切に活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる。 ・教材研究や校内OJTの充実により、児童に学び方を習得させ、学ぶ楽しさを味わせるとともに、児童の自信と意欲を育む。 ・常に児童の姿に基づき、授業評価や授業改善を継続する。
<p>【これからの時代を生きる能力を身に付け、最後までやり遂げる児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康に関心をもち、主体的に運動や体力向上に取り組む。 ・自己の目標を定め、新しいことにチャレンジし、最後までやり抜く。 	<p>【学校運営の主体者として協働・挑戦する教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が学校運営の主体者としての意識をもち、互いの得意を生かして協働する。 ・働き方改革を進め、心身の健康を保ちつつ、児童と向き合う時間を確保する。 ・自己の課題克服や指導力向上に向けて、新しいことに挑戦し努力する。

3 中期的目標と方策 (4つの柱)

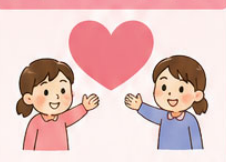
(1)「保護者・地域と連携した教育活動の充実」関連



- 1 学校運営協議会機能を取り入れた「開かれた学校づくり協議会」と協働体制を構築します。「開かれた学校づくり協議会」が主体的に活動できるよう、会長と連携するとともに学校情報の共有を図ります。
- 2 保育園・幼稚園・こども園との円滑な接続と学びの連続性を念頭に、教育活動の見直しを進めます。



(2)「やさしく」の関連



- 1 「子どものための学校風土D調査」(以下:学校風土D調査)を実施・分析、活用することで、いじめや不登校等の未然防止の指導に生かします。
- 2 教職員が児童に対して丁寧な言葉で話すことにより、言語環境の整備に努め、児童の人権意識・人権感覚を高めます。
- 3 思いやりの心やリーダー性を育成するために、児童が主体的に進める異年齢集団の活動を意図的・計画的に行います。



(3)「かしこく」の関連



- 1 生活時程表の見直しを行いながら、カリキュラム・マネジメントを工夫し、意図的、計画的かつ効果的な学習を展開できるようにするために、教員同士の学び合いであるOJTを充実させ、授業の質を高めます。
- 2 ICT機器を適切に活用できる指導計画を整備し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を効果的に進めます。



(4)「たくましく」の関連



- 1 地域の協力者の支援を得ながら、地元の自然・文化・施設を活用し、環境保全、自然愛護、地域の一員としての自覚、すすんで社会にかかわる心などを育みます。



4 令和7年度の課題 (令和7年度 学校評価報告書より抜粋)

項目	重点目標	改善策・対応策
豊かな心	友達のよさを認め、互いに思いやりのある言葉をかけ合えるような指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き保護者アンケートでは高い評価をいただいている。 ・学校風土D調査「この学校の児童生徒は、お互いのことを尊重している。」(50.7→50.9→52.1→52.7) 学校風土D調査の結果も向上している。
	いじめ防止対策委員会を定期的に実施し、いじめや不登校等の未然防止、早期発見・対応・解決に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は、肯定的評価が10ポイント以上増えたが、引き続き学校の取組が保護者には見えにくいという課題がある。 ・学校風土D調査「この学校の児童生徒は、この学校にいて安全だと感じている。」(49.9→49.5→52.6→52.9) 学校風土D調査の結果も向上している。
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 <ul style="list-style-type: none"> ・学校風土D調査を継続し、その結果を教育活動の改善に活用する。 ・武蔵野市いじめ防止基本方針の改定に合わせ、本校の方針も改定する。 ・学校評価については、紙面とフォームを併用して回答率の向上を図る。 あわせて、保護者への周知方法や連携のあり方を工夫していく。 	
確かな学力	カリキュラム・マネジメントを工夫し、意図的、計画的かつ効果的な学習を展開するとともに、高学年の教科担任制に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校風土D調査「学校の授業は楽しい。」(51.1→50.8→52.2→52.3) 学校風土D調査の結果も向上しているが、高学年はやや低くなっている。 ・家庭での学習習慣については、学校と家庭の役割分担を考えながら、家庭と連携した取組を工夫していく。
	ICT機器を正しく、有効に活用できる指導計画を作成し、効果的な授業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者用コンピュータのルールについては、学校でも家庭でも、定期的に振り返ることで意識させることができる。学級や家庭ごとに、取組の差が大きくなりないうよう、引き続き指導を継続していく。

	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化に向けて、単なる宿題の増量による解決を図るのではなく、まずは授業の充実によって児童の学習意欲を喚起することに注力する。その上で、保護者会や個人面談等の機会を通じて家庭との連携を深め、生活リズムの改善や学習環境の整備について共通理解を図る。 ・あわせて、児童が自ら時間を計画的かつ有効に活用できるよう、具体的な時間の使い方の指導を継続していく。 	
健やかな体	運動に親しむ態度を養い、体力の向上に努める。	
	生活リズム表の効果的な活用を進める。	
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着衣泳については、原則として毎年度実施する。ただし、天候や水温等の状況により実施を見送らざるを得ない場合がある。 ・外遊びの指導については、一律の強制ではなく、児童が主体的に判断し、行動を選択できる指導体制へと移行を図る。 ・戸外で体を動かす喜びを享受できるよう、指導内容の充実を図るとともに、近隣のこども園・保育園との連携や保護者への啓発活動を推進する。 	
その他	開かれた学校づくり協議会の活動の様子を発信する。	・今年度新たに設定した項目である。協議会の事前、事後の周知について、次年度以降改善していく。
	適切に児童や保護者の相談にのり、対応する。	
	昨年度に比べて、児童・生徒と向き合う時間が増えた。	・生活時程表の見直し等を行い、肯定的評価が増えるように改善していく。
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「開かれた学校づくり協議会」の趣旨や活動内容について、保護者会等の機会を通じて周知を図る。あわせて、広報紙を定期的に発行し、情報の共有に努める。 ・児童と協議会委員による意見交換の場を設定し、学校運営に児童の視点を取り入れるとともに、地域住民との交流を促進する。 ・不安や悩みを抱える児童及び保護者に対し、引き続き個別の状況に即したきめ細かな支援を行い、安心感の醸成に努める。 	

5 今年度の重点目標と方策

(1) 「保護者・地域と連携した教育活動の充実」関連（全）

- ① 「開かれた学校づくり協議会」の趣旨や活動内容を保護者会等で周知するとともに、広報紙を定期的に発行し、情報共有に努めます。児童と協議会委員による意見交換の場を新たに設定し、学校運営に児童の視点を取り入れていきます。
- ② 学校評価は紙とデジタルを併用して回答率の向上を図ります。
- ③ 各種たよりやホームページ等を活用することにより、積極的に情報発信し、地域に開かれた学校を作ります。
 - ・ホームページは、各学年が児童の様子を月4回以上発信します。
 - ・学校だよりや学年だよりは連絡事項で終わるのではなく、本校の教育活動や児童の姿が見えるものとします。
- ④ 保護者や地域の協力、支援を得て、校外学習や地域学習を推進・充実させます。児童には地域行事への参加を促し、地域との関わりを深めます。
- ⑤ 部活動指導員を活用し、二小吹奏楽部クラブの活動を充実させるとともに、その練習成果を発表する機会を学校行事や児童朝会、地域の行事等で確保し、児童の意欲と自信を育みます。

(2) 「やさしく」の関連

- ① 学校風土D調査の結果を活用し、学校全体や学年・学級の実態を客観的に把握するとともに、学びの自己決定、協働的な学習活動、ユニバーサルデザイン

- の視点により、児童が安心して学べる学校づくりを進めます。(全)
- ② 校内研究では、学級活動に焦点をあて、多様な意見を認め合い、対話を通じて合意形成を図る活動を行うことで、多様性を生かし、集団の一員としてよりよい人間関係を築こうとする児童を育てます。(研推・全)
 - ③ 児童が、友達のよさを認め、互いに思いやりのある言葉をかけ合える姿を目指しています。そのために、私たち教職員も児童のよさを認め、励ます声かけを心がけます。(全)
 - ④ 多様性を理解し、物事を多面的・多角的に考える力を育むために、特別の教科道徳の授業を改善し、考える道徳、議論する道徳を実践します。今年度は、「善悪の判断」「個性の伸長」「親切、思いやり」「規則の尊重」「公正、公平、社会主義」「生命の尊さ」を全学年共通の重点内容として取り組みます。家庭でも道徳の授業について話題にさせていただくために、学年だより等に「資料名」を記載します。(担任)
 - ⑤ 生命の尊さを学び、生命を大切にする考えや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を身に付けるための教育(生命の安全教育)を、全学年で年間1単位時間以上、計画的に実施します。(担任)
 - ⑥ 障がい者理解教育や国際理解教育に取り組み、「子どもにとって大切な子どもの権利」等について学習する機会を設定します。(全)
 - ⑦ 学校生活の中から身近な課題を設定し、多様な意見を認め合い、それぞれのよさを生かし対話を通じて合意形成を図る学級活動を実践します。(担任)
 - ⑧ 異学年交流の場を充実させ、児童が自発的・自治的に協働し、互いに認め高め合う豊かな人間関係を育みます。(特活・担任)
 - ⑨ 近隣の保育園・幼稚園・こども園、中学校等との交流活動を計画的に実施し、円滑な接続と学びの連続性に努めます。(担任)
 - ⑩ 入学段階で「武蔵野スタートカリキュラム」を活用し、円滑な接続に努めるとともに、「安心」「成長」「自立」の3つの視点で、よりよい人間関係を築くための社会的スキルを育む活動を工夫します。(1年担任)
 - ⑪ 市の改定に合わせて、本校のいじめ防止基本方針を改定します。その方針に基づいて、いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、いじめや不登校等の未然防止、早期発見・対応・解決に取り組み、取組内容を保護者に報告します。
 - ⑫ 9月の「いじめ防止重点月間」、年3回の「ふれあい月間」に行うアンケート調査、年2回の学校風土D調査や、都のスクールカウンセラー及び市の派遣相談員を活用し、児童の様子をきめ細かく把握します。教室に入れない子のために、どんぐりルームの活用を進めます。(生活指導・研推・特別支援CD)
 - ⑬ 落ち着いた学校生活を送れるよう、二小のきまり・やくそくを守り、静かで丁寧な清掃活動を行います。(生活指導・全)
 - ⑭ あいさつを重点目標とし、全教職員で取り組み、友達と協働する力や優しさ、思いやり等を幅広く育みます。(生活指導・全)
 - ⑮ 児童や児童を取り巻く多様な課題は、生活指導夕会で共通理解を図り、組織的な対応を推進します。(生活指導)

(3) 「かしこく」の関連

- ① 生活時程表の見直しを行いながら、カリキュラム・マネジメントを工夫し、意図的、計画的かつ効果的な学習を展開するとともに、講師を活用し、高学年の教科担任制に取り組みます。(全)
- ② 地域コーディネーターを核とした武蔵野市民科の学習を充実させ、継続して取り組める単元開発を行うとともに、自立、協働、社会参画に関する資質・能力を育みます。(高学年担任)
- ③ ICT機器を適切に活用できる指導計画を整備し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を深める授業を実現するとともに、効率的な家庭学習を支援します。(ICT・全)
- ④ 家庭学習の習慣化に向けて、単に宿題を増やすのではなく、授業の充実によって児童の学習意欲を喚起します。あわせて、保護者会や個人面談等の機会を通じて家庭との連携を深め、生活リズムの改善や学習環境の整備について共通理解を図ります。(全)
- ⑤ 教員は、お互いに授業を参観したり、OJT研修を行ったりして、特に若手教員の指導力向上に努めます。(研推・全)
- ⑥ ALTや学習指導補助員、学校司書等、様々な教職員と連携を図り、授業の質の向上に努めます。(全)
- ⑦ 二小のきまり・やくそくを徹底し、学習規律や学習習慣を確立します。
 - ・学習前に学習に必要な物を準備する。・「はい」と返事をして、立って答える。
 - ・話している人を意識して話を聞く。・下校後、忘れ物を取りに来てはいけない。また、保護者と連携し、「二小学習者用コンピュータ使用ルール」の定着を図ります。(生活指導・ICT・全)
- ⑧ 学校行事は、日頃の学習の成果を発表する場とするとともに、児童の発想を生かしたものとします。行事に向けた指導は、指導時間・内容を十分吟味し、計画的に行うことで、児童に達成感・成就感を味わわせ、自信と意欲を育みます。(体育的・文化的・全)

(4) 「たくましく」の関連

- ① 体育の授業や体育朝会、体育的行事、学期に1回の二小オリンピックや休み時間の外遊びの奨励等、運動に親しむ態度を養い、体力の向上(本校の課題はソフトボール投げ・握力・反復横とび)に努めます。また、教員も休み時間はできるだけ児童と一緒に遊ぶように努めます。(体育的・全)
- ② 市の栄養士による給食指導や食に関する指導・取組を通して、正しい食事のルールやマナーを定着させます。また、食物アレルギーへの適切な対応を徹底します。4年生以上の希望者には、給食後の歯磨きを実施します。(担任・生活指導・食育)
- ③ より実践的な避難訓練を工夫し、安全指導や各学年の防災訓練等を通して、自助・共助の意識や態度を育みます。(生活指導・全)
- ④ 生活リズム表の効果的な活用を進めます。(生活指導)
- ⑤ 安全教育の一環として、もしもの時に備えた「着衣泳」を実施します。(5年)

(5) 働き方改革の推進

- ① 『Something New』を常に心がけ、前年度の課題、今年度の工夫、起案者の思いを教育活動の改善に生かします。(全)
- ② 週に1日は、各自で定時退勤日を設定します。定時退勤日以外も、遅くても20時退勤に努めます。また、午後の出張は直帰に努めます。(全)
- ③ 保護者連絡帳アプリや Google フォーム等の活用によるデジタル化・ハンコレス化をさらに推進し、校務の効率化を図ります。教員が教育活動に十分な時間と活力を注げる環境を整えることで、教育活動の質を向上させます。(ICT)
 - ・ 学年、学級単位のお知らせは、保護者連絡帳アプリで配信します。紙による配布を希望する保護者には、別途配慮します。
- ④ 教職員の得意を生かし、学校運営の効率化を進めます。(全)

(6) その他

- ① 校長を中心に、全教職員が学校運営の主体者として取り組む組織を構築します。(全)
- ② 校内OJTを推進します。(OJT研修、主幹、主任)
 - ・ 教職員一人一人の得意を生かした適材適所の校務分担とOJTにより、若手からベテランまでやりがいをもって教育活動に取り組める校内体制を整備します。
 - ・ 主幹教諭は、主任教諭のOJTを行い、主任教諭が次期の主幹教諭となるよう育成します。
 - ・ 主任教諭は、学校運営に積極的に参画し、若手教員への助言や主幹教諭の補佐を行うことで、次代の学校を担うリーダーを計画的に育成します。
- ③ サービスの厳正(全)
 - ・ 信頼される学校づくりのために教職員一人一人が教育公務員としての自覚と高い倫理観をもち、サービスの厳正に努めます。個人情報管理を徹底し、体罰は絶対に行いません。
 - ・ 学校予算は、計画的かつ効果的に執行します。
 - ・ 私費会計は、「武蔵野市立学校の学校徴収金事務取扱の手引」に従い、保護者の負担がより適正になるよう、計画的かつ効率的に執行します。

6 おわりに

新しい学習指導要領の議論が進んでいます。学校、保護者、地域で、未来の教育について夢を語り合い、新しい学校、教育の姿をともに描く、そんな1年にしていきたいと考えています。